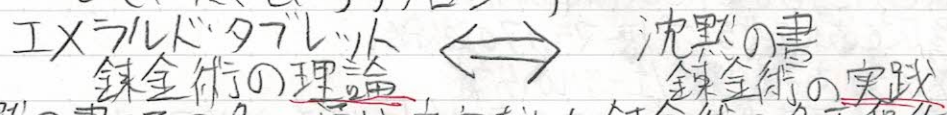


Date 5/6/18

「沈黙の書」 pp.16~19

○神祕的要素の蒸留

紙料...錬金術の基本 物質はそのままで純粋でなく、
操作によって紙料とする
(現代の我々が「溶解」や「蒸留」している作業が、当時は「原理を抽出」
していた、というアナロジー)



・沈黙の書: その名の通り、文字なしに錬金術の各工程作業を示した
ここでは純粋とは太陽と月の精髄であるとした

当時の「全ては神の創造物」という思考 → 全てには神祕的要素が含まれる
それを抽出するのが錬金術であるという

(コラム: 錬金術の基本用語)

- ・賢者の石: 卑金属を貴金属に変成する能力をもつとされる物質、
しかし実際にはX-線による色彩の変化であった
それ以外にも**万能薬**としての作用があるとした。あるいは
そのような物があると肯定するために錬金術が発達した
- ・錬金薬液(エリクシル): おおむね賢者の石だが、こちらは液相とされる
- ・錬金薬液(ティンクチャー): 錬金薬液から薬効がなくなったようなもの
- ・硫黄=水銀理論: ここでいう硫黄と水銀(sulfur/mercury)は金属元素の元ではなく、
女性性のmercuryと男性性のsulfurの結合で金属生成を
説明しようとした理論
- ・第一質料(プリマ・マテリア): すべての物質に内在する根源的な原素材
(アリストテレスからの借用語)
- ・四大元素: atomではなくelement、万物(あるいは**全ての現象***)は4つのelementの
組み合わせで形が決まるとされていた
- ・第五元素: 四大元素が全て地上について説明がもたらしたのに対し、天上のものも説明する
ためアリストテレスが導入したもの 「空」を象徴する
- ・生命霊気: 人間や金属を活性化させるもの アネウマ
賢者の石や第五元素などと等しいものを指すことになる
- ・黒化: 素材となる物質を加熱溶解し、完全に分解する
- ・白化: 物質がさらに変容して「純粋」になる
- ・赤化: 賢者の石が生成される
- ・赤い王: キリスト教圏における賢者の石の擬人化
「永遠の命」がイメージとして重ねられた

(*) 現象の存在が長く信じられていたように、当時のものとしてこのほはあまなかった

錬金術の歴史 pp20~

錬金術の起源は? ⇒今のところ、不明

- └ エジプトに冶金についての古文書はあるが、生命うんぬんではなくあくまで冶金の実例に終始している
- └ ヨーロッパ... **ヘレニズム時代**の**マリウス**と**4世紀**の**ゾシモス**が著名、少なくともそのころには存在したと考えられる

アラビア錬金術の登場

8世紀のアラビア、マホメットが登場して**イスラム世界**が成立
コーランの編纂の中でありとあらゆる神秘が習合、とり込まれていく

↓
当然錬金術もアラビアに流入していくことになる。

- ・ハーリッド・イブン・マズド (バグダッド) アレクサンドリアのモリエウスから漢字で伝授された
- ・ジャビル・イブン・ハヤーン (バグダッド) 300もの錬金術論文を執筆
硫黄=水銀理論など
- ・アッ・ラージー 当時のあらゆる学問に通じた、当時最高の科学者
- ・イブン・シナー 「医学叢書」を上梓、金属変成の可能性を否定した。

(コラム: 中国錬金術=煉丹術)

硫黄 = 水銀理論 ← **ヘレニズム時代**には一切ない概念

- └ 中国の煉丹術において、**赤い辰砂** → **白** 水銀 → **赤い** 酸化水銀
こうして作られた丹薬は不老長寿をもたらすとされた
- イスラム世界が当時の世界すべてを習合するにあたって、ギリシャの自然学と融合してアラビア錬金術ができた、その際この「水銀」が取り込まれたことが由来と思われる。

中世修道院における実践

1096年の**十字軍遠征** → アラビア科学がヨーロッパに持ち込まれる
(あるいは強奪される)

- アラビア語からラテン語へはユダヤ人が翻訳した
- ⇒ 一度錬金術が停滞したヨーロッパに、アラビアから錬金術が逆輸入された。
- 「錬金術の構成」「賢者の群衆」「エクスラウド・タグリット」「錬金術完成大全」などの名著がラテン語でアクセスできるようになった。

修道院 → 異教徒折伏のための理論武装 → 教育
科目として錬金術もあり、院内で実践された。

・アルベルトゥス・マグヌス 普遍博士
 アリストテレスに基づく哲学の講義、また執筆活動
 おまりにアリストテレスに倣いしずもって錬金術を
 アリストテレスの考えで再解釈 ⇒ キリスト教自然科学

・ロジャー・ベーコン 驚異博士
 錬金術が医学・薬学に必要と主張

・アルノー・ド・ヴィルヌーヴ アグニセコンヌやカレノスのラテン語訳
 医学としての錬金術を実践した、「賢者の薔薇園」

・ラモン・ルン アルノーの弟子 第五元素の尊人

・ヨハネス・ニニセ 1317年に錬金術による偽金の製造を禁止
 ただし自身も錬金術の実験はもっていた。

(コラム: ニコラ・フラメル)

ニコラ・フラメル... 錬金術師、ただし実在は疑問視されている
 「アブラハムの書」の密を解釈をもちに金属変成に挑んだ

↓
 実験に成功し、その成果で教会に多額の寄進を行った

② 錬金術の著名人は実在が確認できないことが多い
 「清廉な成功者」を生み出してはくことで、野心や社会じらしのけん制とした?